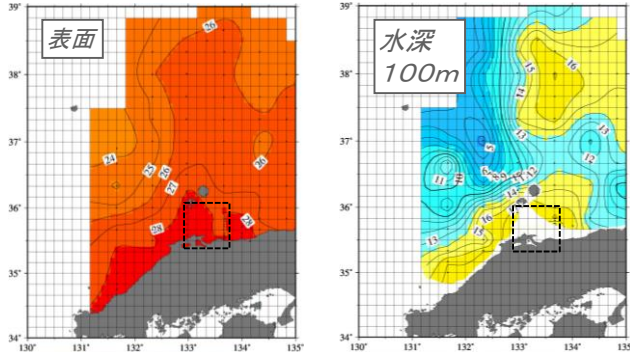
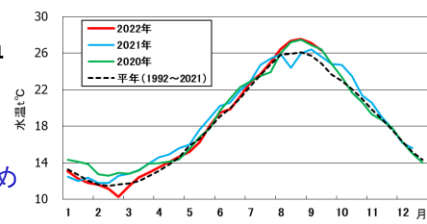




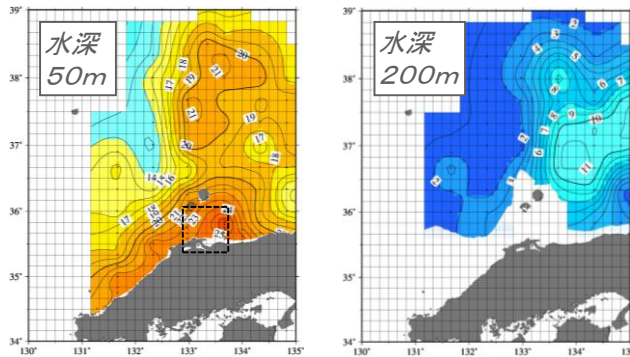
鳥取沿岸の水温

鳥取県栽培漁業センター 沈砂槽
(電話:0858-34-3321)

9月中旬 26.4℃
平年より 0.1℃高め

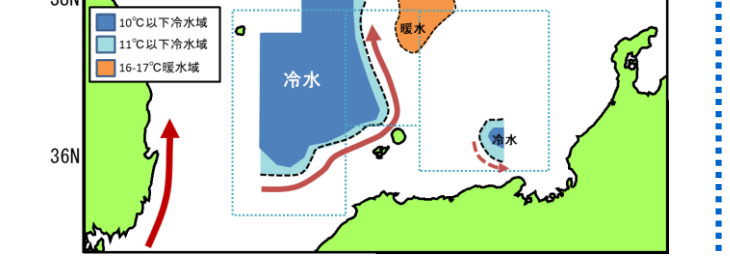


平均水温は16.5℃(14～17℃)を示しています。
【前年差:-1.57℃、平年(直近30年)差:+0.36℃】



平均水温は24.2℃(22～26℃)を示しています。
【前年差:+0.74℃、平年(直近30年)差:+2.06℃】

8月下旬の水塊配置と対馬暖流



鳥根沖冷水域	N35° 50'以北に11℃以下の冷水域が認められます。
隠岐諸島北方の冷水と暖水	島前の北方に鳥根沖冷水域の一部が張り出しています。また、島後の北方N37° 20'以北に16-17℃の暖水域が認められます。
山陰・若狭沖冷水域	兵庫沖N36°以北に11℃以下の冷水域が認められます。
対馬暖流の流路	主流は朝鮮半島東岸に沿って北方に向かい、主流の一部が鳥根沖冷水域に沿って北に向かい流れます。兵庫東沖では「N36°」付近を東方に向かう流れが認められます。

*県内の漁獲情報については水産試験場ホームページ(鳥取県水産試験場で検索してください)に詳しく掲載しています。是非ご利用ください。

水産振興課・漁業調整課

豊かな海の再生を目指して...

とっとり海のごちそう祭を開催しました!

～見て!触って!食べて!知って!ととりのウニのこと、海のこと～
9月10日(土)鳥取港(賀露)にて、「とっとり海のごちそう祭」が開催されました。これは、藻場の衰退の原因となっているムラサキウニを食材に変え、新たな地域資源にすることで鳥取の海を守ろうと今年5月にスタートした「鳥取ブルーカーボンプロジェクト」のキックオフイベントで、次世代へ海を介して人と人とがつながる日本財団「海と日本プロジェクト」の一環で実施されたものです。(漁業調整課 本田)



栽培漁業センター

キジハタ(あこう)の種苗放流を行いました!

鳥取県では、平成28年からキジハタ種苗放流を漁業者主体の事業として行っています。令和2年までは約5万尾のキジハタの放流を行っていましたが、令和3年から2万尾へ削減しています。これは、キジハタの漁獲量が放流前と比べて大きく増加(3.5倍)したため、放流尾数を2万尾に削減しても現状の漁獲量が維持できるのであれば、経費削減に繋がります。

県全体	西部			中部			東部				
	淀江	御来屋	中山	赤崎	泊	青谷	夏泊	浜村	酒津	郡代	
計	53,900	6,440	6,440	6,440	12,880	880	440	440	440	10,800	8,700

県全体	西部			中部			東部				
	淀江	御来屋	中山	赤崎	泊	青谷	夏泊	浜村	酒津	郡代	
計	20,000	2,300	2,300	2,300	5,000	0	450	0	450	4,000	3,200

今後もこれまで実施してきた放流手法や放流尾数削減の効果を検証していくとともに、2万尾の放流規模に合わせた放流場所や時期の検討を行います。引き続き調査へのご理解とご協力をお願いいたします。



水産試験場

9月から解禁となった沖合底びき網の漁況

9月上旬の沖底の漁況予測を、8月に青谷沖1調査点のみ実施した第一鳥取丸の着底トロール調査の結果から、ハタハタについては2歳魚メインの漁獲で漁獲量は多くない、スルメイカが多く入網すると予想しました。市場調査を実施した9月5日の網代、賀露のハタハタの水揚げは2歳魚がメインで、小さい個体は少なく網代計830箱、賀露計2340箱の水揚げがありました。一方で、この日以降はハタハタの水揚げが殆どなく、産卵回遊するハタハタは、早くも本県沖からほとんどいなくなっているようです。また、同日のスルメイカの水揚げは、沖底にしては珍しく300箱/隻程度とかなりの量が網代、賀露船ともにありました。9月中旬頃からの沖底の水揚げはソウハチをメインに、アカガレイ、ニギス、エビ類(あかえび、もさえび等)、ホウボウ等の灘ものとバラエティに富んだ魚種が水揚げされています(航海の度に水揚げ魚種が変わるので、いろいろと漁場を探して見つけた魚を獲っている状態だと推察されます)。



第一鳥取丸でのズワイガニ稚ガニ及びカレイ類稚魚の桁網調査の実施状況

近年の9月は主に鳥取沖、隠岐北方、浜田沖の水深150～200mの海域で、ズワイガニの稚ガニ及びカレイ類の稚魚の分布状況を把握する桁網調査を実施しています。本調査は、主に稚ガニ(甲幅40mm未満)の発生状況を把握し、従来のトロール調査では把握できない、5年程度先のズワイガニの資源状況、漁況を予測することを目的に実施しています。桁網で採集されるズワイガニの平均甲幅は25mm程度ですが、9月12日の水崎沖(水深190m)の調査で、2019年から本調査を始めて以来、最小サイズ(甲幅5.64mm、0.08g)のズワイガニの稚ガニを採集できました。一方で、調査は巨岩の入網による破網や桁枠が曲がるなどのアクシデントが続き、難航しています(現在も継続中)。10月はいよいよ本県の沖底の主力魚種、ズワイガニの漁期前調査が始まります。皆さんに有益な情報が届けられるよう第一鳥取丸船員、調査員が一丸となって事故なく安全に調査を進めて行こうと思います。

令和4年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

共和水産株式会社

代表取締役 前橋 知之

〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地
TEL:0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424
境港営業所 鳥取県境港市栄町67番地 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330